

○ 学習（足跡） ○



イノシシとシカは蹄（ひづめ）を持ち、どちらの足跡も長細い蹄の跡が2つつきます。イノシシは、後ろに副蹄（ふくてい）という小さな跡がつくのが特徴ですが、硬く乾いた土だと跡がつきません。その場合はシカと区別するのは困難です。シカは軟らかい地面でも副蹄はつきません。足跡の大きさは、イノシシもシカも約5～8cmです。

クマの足跡は大きく、成獣の後脚は20cm以上になることもあります。子グマの足跡は小さいので肉球の形で判断します。もし山の中などで見つけてしまったら、クマの生息域であることを意識し、十分注意が必要です。

インターネットHP：マイナビ農業より引用

◇学習用メモ◇

○ 学習（フン） ○



イノシシ



シカ

イノシシのフンの形状は粒の塊がつながった棒状であることが多いです。フンをしてまだ時間があまり経過していないときは、黒っぽくツヤがあります。時間が経過すると乾燥して粒の塊がばらけることがあります。

シカは長さ 5mm から 1cm 程度の俵型でややいびつな形状をしています。バラバラと地面に散在している場合が多いですが、柔らかい草本を多く食べると粒同士が押しつぶされて塊状になる場合もあります。

インターネットHP：鳥獣害対策.com より引用

◇学習用メモ◇

○ 学習（その他） ○

イノシシは泥浴びをした後、体を木の幹にこすりつける習性があります。そのため、木の幹が泥で白くなっているのは、イノシシが木に体をこすり付けた跡です。またイノシシは、ササ類、ススキ、シダ類などの植物を編み込んでドーム状の巣を作ります。

シカも泥浴びをした後、体を木の幹にこすりつける習性があります。イノシシの体こすり跡が根元から 50cm くらいの位置につくのに対し、地面から 50cm 以上の高さにつくことが多いです。

シカの角は 1 年ごとに生え変わり、繁殖期のオスは角を木に擦りつける「角研ぎ」とよばれる行動をします。立木の幹に角をこすりつける行動が発情期の 9～11 月によく見られ、その際 30～100cm 程度の傷跡がランダムにつきます。深さ 1 cm 程度の深い傷跡となる場合もあります。シカは、樹皮を剥がして食べるため、樹皮剥ぎ跡は林の中でよく目立ちます。

◇学習用メモ◇